

平成25年2月4日

日本自然保護協会 記者会見メモ

## 被災地の復興と防潮堤整備について

NPO 法人森は海の恋人  
副理事長 畠山 信

約2年前の2011年3月11日に三陸リアス式海岸は未曾有の大津波に襲われて壊滅的な被害を受けました。現在、復興に向けた取り組みが少しずつ進み始めていますが、被災地では地域住民の十分な理解を得られないまま、巨大防潮堤の建設計画が進行しつつあります。

私は気仙沼市において「森は海の恋人」運動を続けている漁業者であり、また、震災を生き延びた人間として、巨大防潮堤は被災地再生の妨げであると確信しています。

### 1. NPO 法人森は海の恋人として

三陸沿岸の復興に際し、「森・里・川・海のつながり」や「森は海の恋人」といったキーワードが様々な場面で使われており、海外への情報発信も行われています。我々の理念に共感してくださっていることは大変うれしく思いますが、被災地における復興事業は全く逆の方向に動いています。「リアス式海岸のすべてを巨大防潮堤で覆い尽くす」、これが現場の計画です。残念なことに、森と海とのつながりは完全に断ち切れようとしています。

### 2. カキ養殖を営む漁業者として

三陸リアス式海岸での我々の生活は海の恵みに支えられています。漁民の多くは津波を恨んでいません。私たちは津波が周期的に起きること、そして津波によってむしろ漁場が豊かになることを知っています。しかし、巨大防潮堤によって森・里・川・海のつながりが分断されれば、豊穡な海は失われ、漁業の継続は不可能となります。

現在、そのリスクに対する漁業者への補償は検討すらされていません。持続可能な漁業のためにも、環境影響評価の実施を強く要望します。

### 3. 津波から生還した者として

私は地震の直後に海水が引いてゆくのを目の当たりにして、大津波を予感して船を沖合に退避させました。三陸リアス式海岸は海が非常に近いので、津波の発生をすぐに察知できるのです。しかし、巨大防潮堤が整備されれば、海は見えなくなって津波を察知できず、堤防に頼って避難が遅れ、逆に危険性が増します。実際、今回の震災ではそのような地区が多数存在しました。そういった場所での検証はいまだ十分に行われていません。防潮堤の計画は私たちだけでなく後々の将来の世代にまで大きな影響を残します。私たちが次の世代に残すものは、管理費のかかる巨大なコンクリートの塊ではなく、森・里・川・海つながりをもった豊かな自然であるべきです。

### 4. 合意形成について

行政は「防潮堤を作らなければまち作りの計画は進められない」という言葉で住民を脅しています。住民の多くは防潮堤が欲しいのではなく、早急にまち作りをして欲しいのですが、結果として防潮堤を受け入れざるを得ない状況に追い込まれています。「命を守る」という名目のもと、費用対効果の検証や環境への配慮がされず、代替案が一切検討されないまま、防潮堤の計画のみが進められています。住民に選択肢や議論の機会を与えず、説明会で一方的に計画を説明し、それで住民合意を得たとしているのです。前近代的なこの進め方は改められるべきだと思います。

以上

連絡先

NPO 法人 森は海の恋人

〒988-0527 宮城県気仙沼市唐桑町西舞根 133-1

TEL : 0226-31-2751 / FAX : 0226-31-2770 info@mori-umi.org